

宮農情報（麦）

第41号 令和2年3月16日

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 生育概況

本年産麦は、生育期間の高温の影響により、出穂期が平年に比べ大幅に早くなると予想されます。また、昨年産と同様に播種時期の違いにより麦の生育が大きく異なっていますので、生育に応じた適期作業の徹底をお願いします。

なお、今後の降雨が麦へ与える影響は大きいので、枕地や排水溝を整備し、ほ場内に滞水しないように排水対策を徹底してください。

予想出穂期
シロガネコムギ、ちくしW2号
どちらも11月下旬播き 3月24日頃

2 赤かび病防除

品種名	散布時期	使用薬剤及び10a 当たり散布量	実施回数
シロガネコムギ	出穂期7～10日後 (開花期)	トップジンM粉剤DL 4kg または トップジンM水和剤 1000倍(液量100ℓ)	1回 (開花期に多雨の場 合は2回)
ちくしW2号	1回目:出穂期7～ 10日後 2回目:1回目防除 の1週間後		<u>2回必須</u>

※ほ場ごとの生育を確認し、適期に防除するよう心がけてください。

※「ちくしW2号」は赤かび病にやや弱いため、2回防除を実施します。

＜防除適期＞※11月下旬播きの場合
シロガネコムギ・ちくしW2号
4月1日～5日頃

※出穂前後に気温が下がると、出穂及び開花が遅れるので、上記防除適期より遅くなる場合があります。開花（白い葯が見える）を十分確認し防除を行って下さい。

※出穂期に「降雨＋温暖」の気象条件が続くと、赤かび病が多発する恐れがあり、シロガネコムギにおいても2回目の防除が必要になる場合があります。

※防除は、朝夕の風のない時に行いましょう。隣接ほ場に他作物が作付されている場合は、農薬が飛沫しないよう特に注意して下さい。

(裏面につづく)

3 穂揃期追肥

「ちくしW2号」は、タンパク質含有率12%を確保する必要があります。穂揃期（全茎数の80%以上が出穂した日）から2週間以内を目安に追肥を行うことで、タンパク質含有率を高めることができます。施用量(散布量)の目安は、以下のとおりです。

★穂揃期に10a当たり硫安10kgを施用するか、赤かび病防除と同時の尿素葉面散布4kg(液量100ℓ)を行います。

～赤かび病防除と同時の尿素葉面散布の方法～

赤かび病防除時期（開花期）に、10a当たり尿素4kgと農薬を、水100ℓに溶かして散布します。なお尿素葉面散布の場合、晴天で気温が高い日などは、葉先や芒が若干枯れますが、粒の充実や収量への影響はありません。

また、散布後は散布器具が故障しない様、洗浄を入念に行います。（ノズル、ホースだけでなく、器具全体を水洗いする）

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！